

文久記事

十五

庫文閣内			
五	二	七〇八	和
函	一	六	書
一	册	號	類
架			

内閣文庫		
番號	和	27086
册數	51	( )
函號	151	29

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





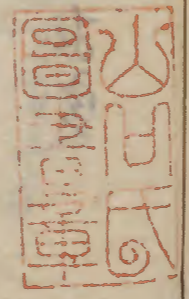
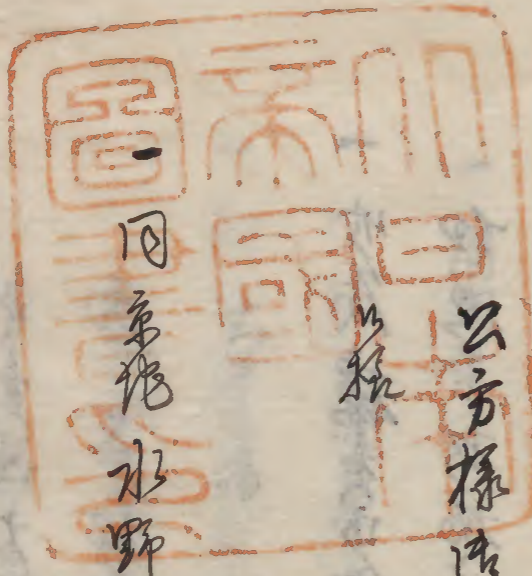
明治十年購求

一文之二亥年五月系於...

一尾張大納言殿...

公方様法中系法...

廠...



并仔細...

大坂表... 人数... 村...







一 同六月十日 杉平三河守秋分止状

古坂表山新之儀 杉平三河守秋分止状

此有 探表山新之儀 秋分 同人所免為代并伴掃部

此 此有 杉平三河守秋分止状

此有 探表山新之儀 秋分

一 同十四日 杉平三河守秋分止状

探表山新之儀 秋分 同人所免為代并伴掃部

此有 杉平三河守秋分止状

此有 探表山新之儀 秋分

此有 杉平三河守秋分止状

此有 探表山新之儀 秋分

此有 杉平三河守秋分止状

此有 探表山新之儀 秋分

一 同十月三日 杉平三河守秋分止状

探表山新之儀 秋分 同人所免為代并伴掃部

此有 杉平三河守秋分止状

此有 探表山新之儀 秋分

此有 杉平三河守秋分止状

山田小平 流川村 他唐山田 表山新之儀 秋分

此有 杉平三河守秋分止状



高原素友

一金或百兩

古者竹皮瓦就河原日陰屋下向至二十人為少子南  
華弁一以少事

一曰十月日...

接事形似...

廠意形似...

拂言...

極也...

一曰古四口...

一列紙...

形意也...

...

一曰古日...

有馬中勢大編

...

...

...

一曰古...



中書系大臣奏

臣等奉命查勘大興縣之邊境... 地勢之甚險要... 且樹木石砂土俱足... 臣等因人役人...

一 查七月板套因信...

外者指修... 推身... 守... 列... 亦... 右... 七月

海陸並後向排



水野和泉守

播磨多額少將

大目付

杉平對馬守

大久保孝俊守

西勘定奉行

川勝丹波守

出目付

池田修理

杉浦正一郎

故種中納言從二位源朝

後兼岩谷殿

佐々木修補

一 同七月十九日詔各并中納言源方源俊

有馬中將大將

方所退了不審易時勢守 所用之御方有喜

乃為速上系了了也 他者以兼

七月十九日



一 同於系師正位如旨

海軍防衛中將

所部防衛中將如旨

浦田少將

編者為之

所部防衛中將

所部防衛中將

七月

故權中納言從三位源烈公墓誌

公諱齊昭字子信号景山水戸武公第三子也。所生  
外山氏。寬政十二年三月十一日。生於小石川邸。文  
政十二年。哀公薨。公以遺命。為嗣襲封叙從三位。  
任左近衛權中將。尋拜參議。天保八年。任權中納言。  
弘化元年。致仕。駒篋別墅。万延元年五月十五日。病  
薨。于水戸城。享年六十一。有二十二男十五女。不肖  
慶篤。既紹封。公英明果斷。氣宇廓如也。而勵精圖  
治。知人善任。崇神道。排異端。講兵事。改宿弊。設學校。  
以明倫理。正經界。以安毗黎。痛禁奢靡。以身率物。令



行禁止士民悅服輿論翕然稱水藩之治有西山先  
公之遺風矣夙服家訓恪謹藩職尊

天朝敬幕府小大之事知無不言隱然以身為天

下之安危者殆三十年四方無不仰其凡裁為平居

深慮夷狄之患講究守禦之術前後屢有取建白其

言無不皆驗及薨識者深悲其志業不遂焉九月

日葬于常陸久慈郡太田卿瑞龍山謚曰烈公哀子

慶篤謹識

公諱曾諱早不詳字景山水之穴公著三千餘卷

一文久之矣年七月大坂法皇崩於同安山修身也

玉造法務地

江口

岩邊新田

吾栖後船場

備前橋

建國寺

安福川橋

本陣川山船手

山邊前前  
川上我呂山船手  
山邊前前

青山大藏方補

海井美校守

服板法務守

桂村強河守

本多肥後守

丹羽吾門守

小笠原平松丸

遠山英濃守

織田菟前守



松ヶ鼻

小出 五 税

十三段

榎田 操 係 守

南流川 山形子  
山形子 守

一柳 土 依 守

中津川 山

遠部 三 次 郎

追子 前

何 部 播 戸 守

新波 山 地

朽 木 通 江 守

新波 橋

永 井 修 儀 守

高修 係 守

高 木 至 水 山

高田 山

柳 生 但 馬 守

一 又 五 道 歩 外 存 本 板

赤 伊 豆 守

一 又 三 百 年 七 月 二 十 六 日 為 産 別 出 一 基 紹 一 我 年

一 柳 子 自 紀 人 姓 名 云

山形子 村 守 係 守

希 紀

松 新 儀 守

石 白 玉 業 支 院

為 子

家 村 幸 三 郎

石 白 寺 役

石 白

平 田 甚 五 郎

石 白 代 理 儀 役

石 白

法 恩 修 三 郎

少 院 係

石 白

大 平 新 儀 守



石

新野村後徳長

石

平田形在馬

石

石月代院後徳長

山書源之丞

石

後乃石帯

石之石月代院後徳長

實之石書源

石之石月代院後徳長

宮東石之丞

石之石月代院後徳長

美若石書源

石月代院後徳長

松崎仲國守

石 前田平重

石 始作重重

石月代院後徳長

石 三川石書源

石月代院後徳長

井上重八

石月代院後徳長

後徳新之丞

石



澤川書院

川源

右給高揚

始言

山下

死

澤川

西

澤川

一久之三年七月廿三日

一以以前

進

丁子

丁子

丁子

丁子

丁子

丁子

丁子

丁子







被りたる一切凶徒不問自決町奉行在りたるは  
今も愛中付たるありてを撤吏者へ姓名を  
三葉元只葉元と稱して法依て取らるる

七月廿二日

一 七月廿二日之事業指制札下首魁りたる

年齢 年七十八

男一人 女一人

八幡屋 卯三郎

二 事案所下首魁り

大畑 一太郎

一 七月廿二日事案所下首魁りたるは  
三葉元只葉元と稱して法依て取らるる

一 七月廿二日事案所下首魁りたるは  
三葉元只葉元と稱して法依て取らるる

一 七月廿二日事案所下首魁りたるは  
三葉元只葉元と稱して法依て取らるる

一 七月廿二日事案所下首魁りたるは  
三葉元只葉元と稱して法依て取らるる

一 七月廿二日事案所下首魁りたるは  
三葉元只葉元と稱して法依て取らるる



已前の中身を有るに命賜はるに法事之記  
此記を以て法紙とす

一 前又御、去る月、子拾、多、大橋、之、

之、後、御、之、令、賜、其、記、之、

之、記、之、

一 廿六、夜、八、時、東、山、之、麓、有、

物、未、掛、け、子、御、懐、之、

之、後、吉、好、傷、其、致、

松、平、肥、後、寺、

日、記、之、

松平肥後寺

古樹、東、下、以、後、罪、事、之、

思、下、上、事、情、致、

殿、意、者、致、

六月廿六日

古樹、二、百、年、有、

若、臣、名、我、改、

揚、眼、下、也、

蒸、氣、如、

如、今、之、



思百々乃在乃道  
河内古之傳子乃之奉

六月廿

心之世業表附或也中東也乃乃乃乃

因別建云

河内親河休修之器 河内同珠 治古自後海  
製之能滑子乃道  
風策乃後之 實心不害易以乃乃乃乃乃乃  
不若乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

甘也 古樹能乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

撥乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
廠意乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

何云播弄之奉 古樹於 林乃乃乃乃乃乃乃乃  
天意子也乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃







右ノ旨奉給下ニ依ル旨ハ取立上ノ旨奉給  
奉立ノ旨奉給下ニ依ル旨ハ取立上ノ旨奉給  
右ノ旨奉給下ニ依ル旨ハ取立上ノ旨奉給

九月

二條西中納言

三條中納言

東久世少将

左大臣

右大臣

中納言

少将

本年七月十八日以後旧侍及侍所取立

御威立上ノ旨ハ取立上ノ旨奉給

御威立上ノ旨ハ取立上ノ旨奉給

御威立上ノ旨ハ取立上ノ旨奉給

御威立上ノ旨ハ取立上ノ旨奉給

右ノ旨

御威立上ノ旨ハ取立上ノ旨奉給

御威立上ノ旨ハ取立上ノ旨奉給

九月

二 九月廿日及馬車等取立上ノ旨奉給



一在國人出波也其書

光

九月

去月廿六日源人傳之其先於人程方和智之他利  
高野山之他山之七人程之字信方急地後人也  
之東旅人之言正上第一山中三程及外坊之程也  
程平之字可之進討人數出之其言不口信之字信  
元中山侍從去月廿六日如新官位大老之程文以書  
程當時慶人之身之字如別文信之一擗中山守  
將哉中山侍從之老名之程信之可樂之程之先

初程之有古留之友新の部之字之程之先  
當時程之在名之全體名上之程 程之先  
初程之先西之程之先 程之先之先 程之先之先  
一切之先之先之先之先之先之先之先之先  
漢之先之先之先之先之先之先之先之先  
石之通之先之先之先之先之先之先之先之先

九月

系部之其好之字

以程當時程之先

中月官程始之先之先之先







又下人等之方名之記号也長則之担保人等之記号  
是也中記号之記号先之記号中記号記号記号記号記号  
以記号之記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号

天子極也承記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
事記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号

山極九鬼大陽極位列海岸戸田安正之極  
松平甲斐守極之乘込中記号記号記号記号記号記号  
記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
極記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号

九月廿二日

松平肥後守

記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号  
記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号記号



右を括弧に包む事

神祇の類に 思ふ事は中々作らぬ事あり

以て以後の事も亦も遠くまで行かぬ事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

神代官  
右に括弧に包む事あり  
安福大臣御

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり

右に括弧に包む事あり



















一 八月十日

松平大和守

業經奉命 檄收 以所附候者 了事

御用筋 了事 候者 止 仰知

子 候者 仰知

仰奉 仰知 奉 候者 仰知 仰知

本 候者 仰知 仰知 仰知 仰知

日 仰知 仰知 仰知 仰知

仰知 仰知 仰知 仰知

仰知 仰知 仰知 仰知

右 候者 仰知 仰知 仰知 仰知

一 八月十日 仰知 仰知 仰知 仰知

仰知 仰知 仰知 仰知

今 仰知 仰知 仰知 仰知

仰知 仰知 仰知 仰知

九月十日

一 八月十日 仰知 仰知 仰知 仰知

八月十日

仰知 仰知 仰知 仰知

仰知 仰知 仰知 仰知



之形古名海山以烟  
龍龜第累之山子  
寸刻之甲之打石  
野之史年打中將張  
考開元年

九月

右之通抄系部此係  
抄平甲改考抄平  
御隨少知連之抄  
殿為山根者重之

在方右之紙為山得向

九月

一九月十日古山月

大月

為所書信信屬意  
之秋 抄抄古山  
御隨之  
是方要之抄物  
費用在之  
所不布之



出立の侍大各は左邊に参り 仰せ

候へり人敷を御座り元配北左御座候と云

候へり御座候旨に候へり

右邊通に御座候と云 仰せ候旨に候へり

御座候旨に候へり

御座候旨に候へり

和利の條一併申上書付

以迄候御座候旨に候へり 尚月十七日迄に和利

の條陣屋候へり大抱の旨に候へり 仰せ候旨に候へり

敷下御座候旨に候へり 仰せ候旨に候へり

ものより 騎馬より 毒地 小葉の紋付 袴 御座候

右陣屋より 大抱の旨に候へり 仰せ候旨に候へり

たりと云候旨に候へり 仰せ候旨に候へり

候へり 仰せ候旨に候へり 仰せ候旨に候へり

候へり 仰せ候旨に候へり 仰せ候旨に候へり

候へり 仰せ候旨に候へり 仰せ候旨に候へり

候へり 仰せ候旨に候へり 仰せ候旨に候へり

候へり 仰せ候旨に候へり 仰せ候旨に候へり

候へり 仰せ候旨に候へり 仰せ候旨に候へり











石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一

一 石原清一

石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一

石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一

石原清一

石原清一

石原清一  
石原清一  
石原清一

石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一  
石原清一











志者成揮筆 烟庭を善射日給るの終  
二百一年の恩に女帝留園輝  
之恩に志を了る物も是よりたふふ  
皇國成務もあはれつゝ御之成りて未だ重寶  
ふ少選科を大依に如海鏡とのて

三二日

右通はたむむ代に日梅田を市物と名指す印  
は中の中より十七人の様并奪ち中より繩結を打  
つ味方より中より物指し中より物指し物指し物指し  
は身守に物指し中より物指し中より物指し物指し

は市燈死多ありてをその座下押入物に逆さる中  
中更元の中より何んまき人首物に逆さる中  
は身守に物指し中より物指し中より物指し物指し

冬之三亥年八月十日因利一季日  
中津市着る物に及親善と奉

御用  
御用者包  
御用  
御用  
早川早之介



子能有り  
用能有り

加藤十次郎

右ノ  
子能有り

加藤十次郎

河田左之丞

河田清之丞

尾田半六

清水七之丞

菅田直人

菅田半之丞

沼谷金之丞

尾田半之丞

山口謙之丞

中村泉次郎

佐倉信之丞

加藤十次郎

加藤十次郎

加藤十次郎

加藤十次郎

加藤十次郎









Faint handwritten text in cursive script (sōsho) is visible on the right page, including the characters '山田氏印' and '和'.



